4．防犯ブザーの効果と留意点

1 防犯ブザーの配布（または貸与）状況，故障発生状況等のアンケート調査

※全国の政令指定都市，中核市，特例市（合計 99 市，うち回答 81 市）

① **ほとんどの市が，何らかの形で子どもに防犯ブザーを配布（または貸与）している。**

平成 20 年度に，市のほか，学校・PTA・地元企業などにより，子どもに防犯ブザーを配布（または貸与）しているのは，72％（58 市）であった。（図 1，図 2）

② **配布（または貸与）した市のほとんどが，故障の苦情を受けている。**

防犯ブザーを配布（または貸与）した市（31 市）の 81％（25 市）で故障の苦情を受けていた。（図 3，図 4）

故障の内容は，初期不良，鳴らなくなったなどであった。（図 6）

（出典：「子どもを守れるのか !!　防犯ブザーの故障が多発」（独）国民生活センター）

図 1．子どもたちへの防犯ブザー配布状況

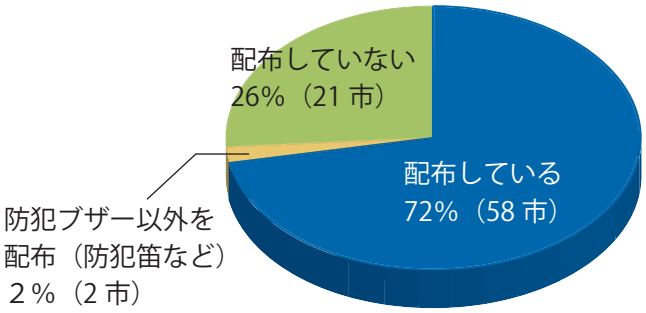


図 2．防犯ブザーの配布者

（配布している 58 市中）

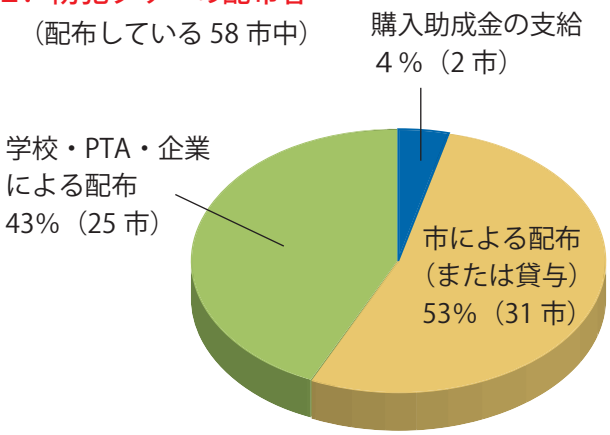
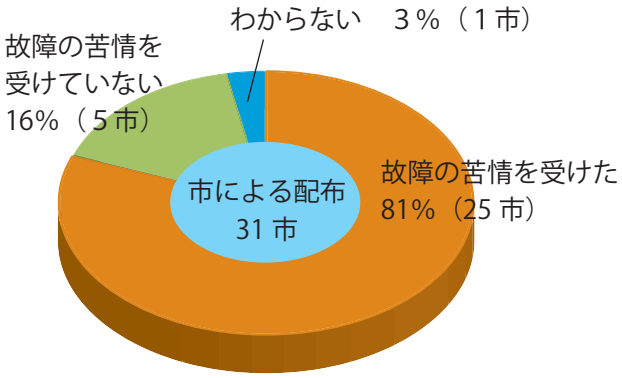


図 3．配布された防犯ブザーの故障状況



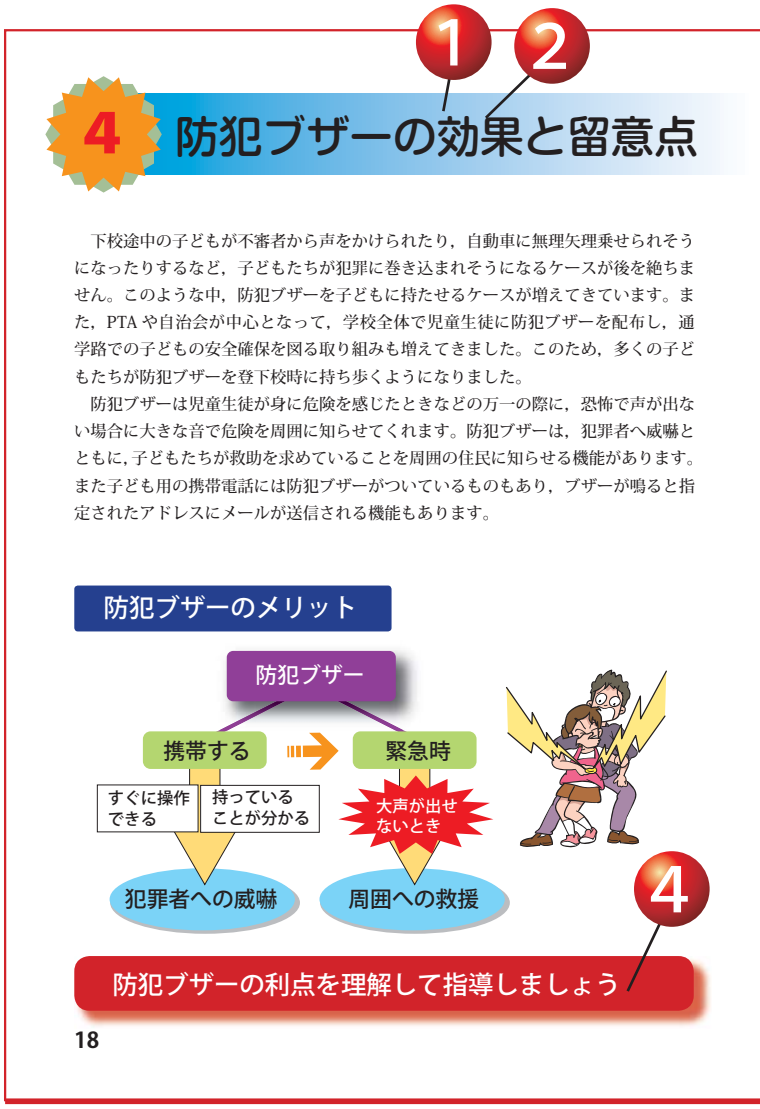


図４．故障件数
（2008 年度の配布における件数／ 2008 年９月時点）

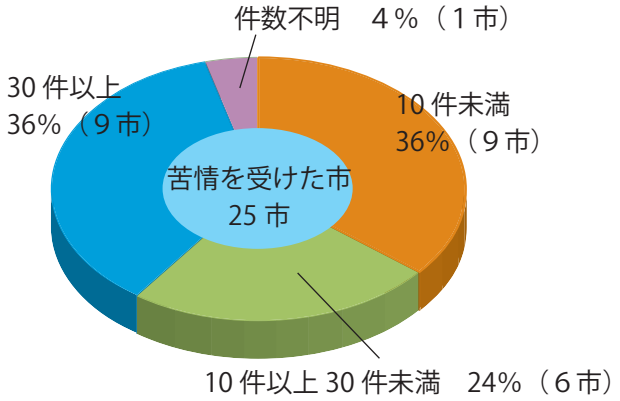
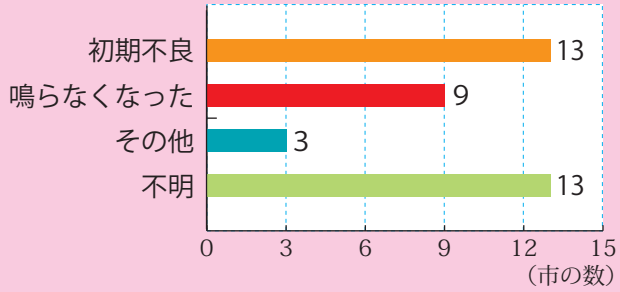


図５．故障内容（複数回答）



規準表〈22a〉　防犯に関する機器や道具の特徴や特性，有効性などを理解している。
ねらい　□□　②防犯協会推奨商品のポイントや警察庁推奨の音の大きさなどについて理解している。
□□　③防犯ブザーの長所・短所，有効な場所などについて説明できる。
□□　④防犯ブザーを利用するときの注意点や管理方法等について指導できる。　4

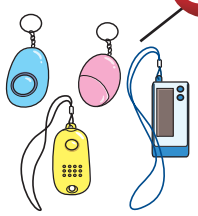
気をつけよう

子どもたちが持っている防犯ブザーには多種多様な製品がありますが，中には音量や音色などに不備があり，防犯ブザーとしての機能を果たさない製品も見られます。子どもが危険を感じてブザーを鳴らしても，周囲の大人がそれに気づかないようでは，その効果が期待できません。そのため警察庁は，平成 18 年 11 月に防犯ブザーの性能基準を決定しました。

ただ防犯ブザーを持っているだけでは安心とはいえません。まず，子どもたちが操作の練習を日頃から行い，万一の場合に確実に動作できなければなりません。また，電池のチェックを欠かさず，常に持ち歩くように習慣づけることも大切です。何より大切なのは，緊急時に大きな声を上げたり，危険を察知してすぐに逃げたりする防犯の能力を高めることです。防犯ブザーについて家庭や学校で話し合い，子どもたちの防犯意識を高めることが必要です。

ビデオ教材（ビデオ→　防犯ブザーの効果と留意点）
※ビデオを見て防犯ブザーを子どもに持たせるときのポイントをまとめてみましょう。

3


▲防犯ブザーにはたくさんの種類がある

ビデオ資料（関連ビデオ→　学校からの防犯グッズ，防犯ブザーのデメリット）
ビデオの内容についてまとめてみましょう。

19

2　防犯ブザーがあっても危なかった事例

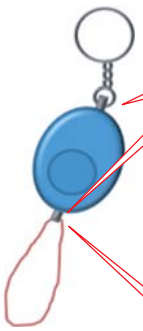
①防犯ブザーが長いひもで取り付けられ，襲われた時にひもが大きく触れて，ブザー本体を確保できなかった。
②防犯ブザーを取り付けた位置が高すぎ，犯罪者に抱きしめられ，手が腰以上に上がらなかった。
③防犯ブザーの電池が切れいていて，ひもを引いたが鳴らなかった。
④防犯ブザーは鳴ったが，誰も来なかった（ふざけていると思われた）。
⑤防犯ブザーも鳴って人もかけつけたが，その人が来るまでに，体を触られてしまった。
（出典：「防犯先生の子ども安全マニュアル」東洋経済新報社／著：清永賢二）

3　防犯ブザーのこんな点にも注目を！

現在，さまざまなブザーが市販されています。

子どもにブザーを持たせる際には，防犯ブザーの性能基準を参考に，ブザーの耐久性や操作性も考慮しましょう。

下のイラストは，ピンタイプのブザーを例にポイントを挙げています。



子どもが持つブザーはカバンに取り付けるキーチェーン部分とスイッチが別々にあるものが，「走った衝撃で鳴ってしまう」などの誤作動が少ない。

スイッチがピンタイプの場合は，プラスチック製よりも金属製のものが摩耗が少なくてよい。

4　参考ホームページ

品川区でのまもるっち（GPS 付き防犯ブザー）の取り組みについて
「近隣セキュリティシステム（まもるっち）の取組」文部科学省ホームページ
（http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/17/12/05120900/007/029.htm）

携帯電話を使った防犯グッズの紹介
「子供を守る！防犯ブザー・位置情報サービス」
（http://www.e-hp.rdy.jp/bouhan/）

5 持たせているだけでは意味がない

最近は，ホイッスル，防犯ブザー，反射シール，GPS 機能のついた携帯電話やランドセルなど，さまざまな防犯グッズが市販されています。

ところが，せっかく防犯グッズを持っていても，使い方を知らない子どもが少なくありません。防犯ブザーは，親子で鳴らす練習，止める練習をして，使い方をしっかり覚えさせましょう。

また，せっかくホイッスルやブザーを携帯させていてもランドセルの中など，すぐに取り出せないところに入れていては危ない時に鳴らせません。ランドセルの脇にぶら下げている子どももよく見かけますが，警戒していることをアピールできても，とっさには鳴らせないでしょう。危ない場所を通るときはあらかじめ手に持っておくほうが安全です。

催涙スプレーやスタンガンといった撃退型の防犯グッズもありますが，これはかえって危険です。万が一，犯人に取り上げられたら，危害を加えられる可能性もあります。子どもに持たせる防犯グッズは周囲の人に危険を知らせ，助けを求めるタイプがいいでしょう。

（出典：「親子で学ぶ子どもの防犯ワークブック」 著：小宮信夫）

6 性能基準を満たした防犯ブザーの音

以下のホームページで，性能基準を満たした防犯ブザーの音を聞くことができます。

（財）全国防犯協会連合会ホームページ
（http://www.bohan.or.jp/buzzer/index.htm）
警察庁ホームページ
（http://www.npa.go.jp/safetylife/seianki67/index.html ）

7 音の大きさの目安

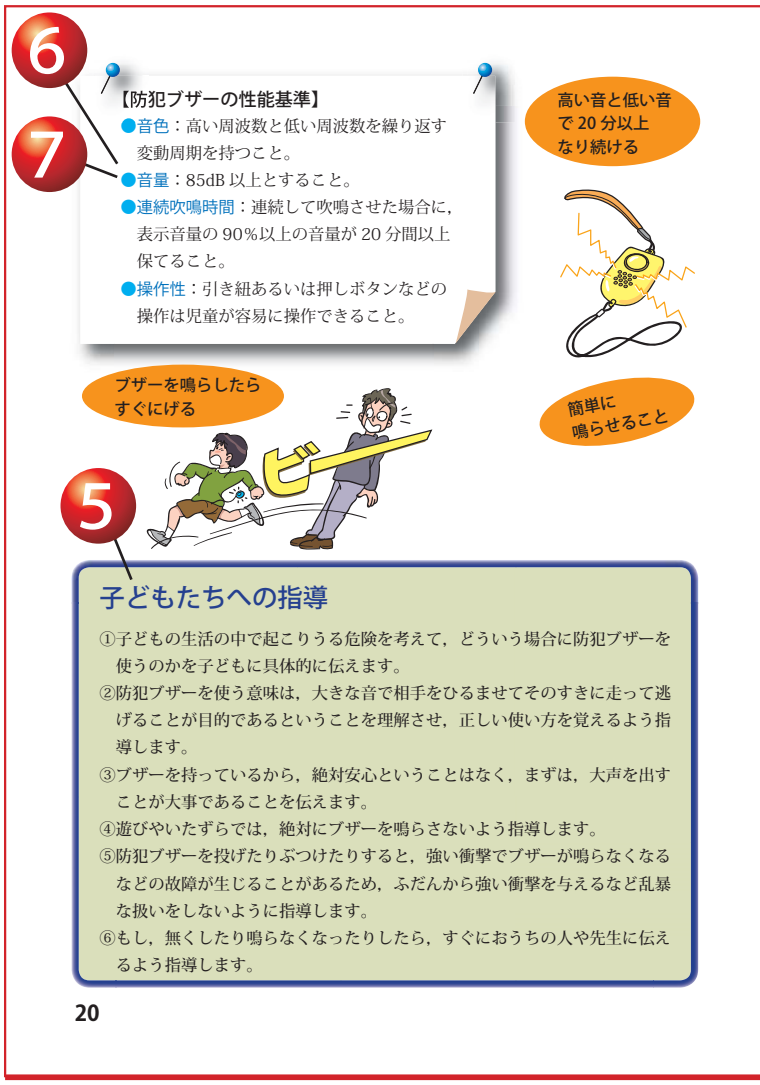
120 デシベル	飛行機エンジンの近く
110 デシベル	自動車の警笛 (前方 2m)
100 デシベル	電車が通るときのガード下
90 デシベル	大声による独唱，騒々しい工場の中
80 デシベル	地下鉄の車内，電車の中
70 デシベル	電話のベル，騒々しい街頭，騒々しい事務所の中
60 デシベル	静かな乗用車，普通の会話
50 デシベル	静かな事務所
40 デシベル	市内の深夜，図書館，静かな住宅地の昼
30 デシベル	郊外の深夜，ささやき声
20 デシベル	木の葉のふれ合う音，置時計の秒針の音 (前方 1m)

（出典：「生活騒音の現状と今後の課題」環境省／昭和 58 年）

8 状況を設定して親子でシミュレーション

犯罪をしようとしている人がもっとも嫌がるのは，大きな音を出されることです。そこで，たとえば大声を出す練習をしてみましょう。ただし，本当に助けを求めて叫んでいると誤解されてしまわないように，布団の中や走っている車の中など，大きな声を出せる場所で練習してください。

また，大きな音で助けを求める防犯ブザーも，必ず事前に使い方を練習させましょう。鳴らし方や止め方，ひもを引くときにどれ位の力が必要なのかを知っているのと知らないのでは，危ない時にとる行動が違ってきます。



子どもに防犯グッズを持たせる場合は，使い方を体験させておくことが大切です。そのほか，いろいろなシチュエーションを想定して，シミュレーションしておくとよいでしょう。

たとえば，犯罪者につかまれたときのことを想定して，お父さんが犯罪者役をやるものいいでしょう。

子どもはおとなに本気でつかまれたとき，どれくらいの力になるのか，案外分かっていません。おとなも子どもも，自分は逃げられると思いこんでいる場合が多いのです。

このようなシミュレーションを繰り返し練習しておくことで，危ない時の行動が適切にとれるようになります。

（出典：「親子で学ぶ子どもの防犯ワークブック」著：小宮信夫）

8 10

家庭での子どもへの指導

①いざというときに慌てないよう，ふだんからおうちの人や先生と一緒に，ブザーの鳴らし方・止め方を練習して，ブザーの大きな音にびっくりして慌てないよう，音になれさせておきます。
②電池が切れていないか，ちゃんと作動するか定期的に点検を行います。
③防犯ブザーは，ランドセルの肩のベルトの部分や手提げカバンなど，すぐ手が届き，鳴らしやすいところに短い紐でつけておきます。
④長すぎる紐は凶器になる危険もあるので，首からは絶対にぶら下げないよう指導します。また，一人であぶない場所を通るときは，最初から手に持っておくように伝えます。
⑤子どもが毎日防犯ブザーを持って出かけるよう，登下校以外のときも，外に出るときは必ず防犯ブザーを持つように習慣として定着させます。

注意して指導しよう

9

学校での指導

①防犯ブザーに頼ることなく，自分で大きな声が出せるように，防犯教室などで実際に大声を出す練習を行います。
②「防犯ブザー携帯中」といったステッカーなどを作成して児童に配布し，ランドセルに貼るなどして，防犯ブザーを持っていることをまわりにアピールするように指導します。

21

9 お願い「全国防犯協会連合会推奨の優良防犯ブザーをお持ちの皆様へ」

防犯ブザーは，いざという時に確実に吹鳴して，周囲の人に危険を知らせるものでなければなりません。日頃から，定期的にブザーの点検など，次のことについて心掛けていただき，事案発生の未然防止にお役立てくださいますようお願いします。

1．最低１か月に１回程度，試験的にブザーを鳴らしてみてください。
2．音量が小さくなってきた場合は，すみやかに電池を交換してください。
3．日頃から，ブザーの装着はどこが一番よいか，また乱暴な取扱いをしないように，さらに，取扱説明書の注意書きをお守りいただくことなど，保護者の方から子どもさんへのご指導をお願いします。
4．ブザーの不良が確認された場合は，遠慮なく販売店，もしくは製造会社等に相談してください。
5．取扱説明書は大切に保管してください。

（出典：財団法人全国防犯協会連合会：
http://www.bohan.or.jp/）

10 被害に遭うと思い通りに動けない

知らない人に腕をつかまれたら，大声で助けを求めること。車に連れ込まれそうになったら，走って逃げるように。このように教えているからといって，危ないときに，子どもはその通りに行動ができるでしょうか？

これは大人でも同じです。本当に怖い思いをしたとき，声がかすれたり，体がすくんで逃げられないというケースは多々あります。大人も子どもも，日頃していないことを突然やろうとしても，なかなか思い通りの行動がとれないものです。

そうならないためにも，被害に遭ったときの状況を想定して，ふだんから親子で模擬訓練をしておくとよいでしょう。

（出典：「親子で学ぶ子どもの防犯ワークブック」著：小宮信夫）